

福井市自立支援協議会 こども部会 課題提起シート

課題提起者名 (所属) 子ども発達支援センターフレンズあすわ

課 題	<p>※「～が必要である。」という書き方にしてください。</p> <p>児童クラブにおける気がかり児童への対応について、児童クラブの職員の対応スキルの向上とともに地域で支える仕組みづくりが必要である。</p>
概 要 及 び 現 状	<p>【概要】</p> <p>児童クラブに在籍する気がかり児童、診断のある児童への対応に苦慮する相談が増えている。児童クラブ職員の発達障がい特性理解やその対応についての知識の不足により、不適切な対応につながっている現状がある。</p> <p>また、その現状を児童クラブだけが抱えていることも多く、相談先が限られている。</p> <p>【現状】</p> <p>児童クラブには支援学級在籍の児童や診断はないが気がかりな児童が必ず数人在籍しているが、職員配置基準ではその児童達に十分な配慮をすることは難しい。</p> <p>また、単学年の受け入れ児童クラブでは、個人情報保護の観点から支援の内容が次に利用する児童クラブ等に情報共有できない状況がある。</p> <p>児童たちが児童クラブを楽しい場所と思えるような場所づくりが特性に合わせて充分になされないことで、児童クラブでの不適応行動、行き渋りがみられている。また、それを受けて放課後等デイサービスへの移行や児童クラブの利用を終了するケースもみられている。</p>
方 針 改 善 の 針	<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブの職員向けの研修（発達障がいについて）の充足。 ・児童クラブが相談や情報の共有ができる地域のネットワークづくり。
具 体 的 な 取 組 内 容	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども育成課と児童発達支援センターが連携し、発達障がいの理解を深める研修を継続的に実施する必要がある。 ・児童クラブと地域の放課後等デイサービス事業所とが交流する機会をもつことで、児童クラブが困ったときに相談できる顔の見える関係を作る。 ・園や学校と児童クラブが連携し、支援に必要な情報や児童クラブが就学時の移行支援会議へ参加するなど、情報を共有できる仕組みができるといい。 ・単学年受け入れの児童クラブでは、児童クラブ同士の連携・情報共有ができる仕組みができるといい。 <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブだけで障がい児の受入れや対応の課題を解決することは難しく、福祉、保育、教育と連携が必要なため。
期 待 さ れ る 効 果	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブにおける障がい児の特性理解や受入れが進み、不適切な対応や受入れ困難となるケースが減る。 ・地域で受入れ続けられる体制づくりが進み、児童クラブと放課後等デイサービスの併用利用をする児童が増える。